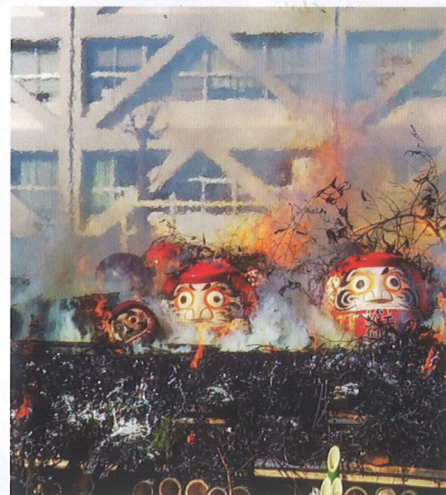


あいあい



どんど焼きで

コロナ収束祈願



1年ぶり、

どんど焼き

開催される

1月16日、昨年はコロナのため開催を見送ったどんど焼きが西原小学校庭で1年ぶりで行われた。

今年もコロナ感染予防のため、豚汁や焼きそばなどの模擬店は行わず、お飾りやお札のお焚き上げのみ実施した。

神職の祝詞とともに西原小、生田校長先生や自治会長さんたちがコロナの収束や無病息災を祈願した。

模擬店や、まゆだまの販売などはなかったが、お飾りやお札のお焚き上げには多くの住民が訪れ、平穏な日常への復帰に思いを寄せていた。



主な内容

3P おうち時間に
何してる？

4P 古を訪ねて

〈特集〉おうち時間に何してる？

コロナ禍の生活に家族で創意工夫がなされ、見えないものに気付き健康に即した生活が営まれているようだ。困難が生み出す力だろう。そんな家族の日々を紹介します。



●お手伝いは楽しいよ！

片岡望さん(小3)は、お母さんの手伝いに励んでいる。仕事で疲れて帰ってくる母親を思いやり、自ら手伝いを買って出た。外食が減り自宅で食事を作ることが多くなったことで料理に興味が出てきた。母親、ゆりえさんが野菜炒めを作っているところを覗き込み「次は何をフライパンを覗き込み「次は何を入れるの？僕が入れるよ！」と興味津々。今は野菜炒めに入れる人参の千切りが細く切れるように頑張っている。食器洗いも上手になった。忙しいお母さんと一緒に台所に立てる時間を楽しんでいる。望さんの作った料理がテーブルにのる日はそう遠くはない。



●休日は町探検

車で遠出することが多かった佐藤さん一家の休日は、父親、正臣さんを先頭に家族が揃ってサイクリングを楽しんでいる。もみじ通りを抜けて城址公園へのコースでは昭和の街並みにドーナツ屋を見つけたり、狭い道や曲がり角では事故に遭わないように意識を持って行動するなど、車では体験できない発見や学びがある。母親、裕子さんは「ハラハラします。交通安全を身に付けて欲しいです」と話す。



●桜に思いを馳せて

ベトナム出身のグエン・ゴック・ビツクさん(小2)は、毎年家族で帰国することを楽しみにしている。だが今は叶わない。小学校に入学して、間もなく緊急事態宣言が発令され自宅待機を余儀なくされた。そんなとき入学式の日の満開の桜がとても印象的で桜の絵をよく描くようになった。祖父とはフェイスブックで連絡を取り合っている。正月に描いた新川の桜の絵をみせると「上手になったね！」と褒めてくれた。ベトナムでは1月に桜が咲くそう。ビツクさんは、その桜の下で祖父と家族みんなを思い出す写真が撮れる日が来ることを待ち望んでいる。



勝負中！

●卓球の力

高橋善行さんは、長男、侑大さん(中2)が中学校で卓球部に入部することを機に卓球の練習と家族の運動不足の解消になるようにと2年前に卓球台を購入した。侑大さんはメキメキと上達し今では家族のコーチをつとめる。弟、倅大さん(小6)も中学校では兄と同じ卓球部に入るそう。食後や入浴後、勉強の合間の気分転換に家族で気軽に卓球を楽しんでいる。



★自治会長研修会で 民生委員との顔合せ会 開かれる

12月18日、自治会長研修会が開かれた。民生委員の担当地区割は自治会ごとではなく、世帯数で決められているので、ひとりの民生委員が二つ三つと自治会をまたいで受け持っている場合があり、1人の自治会長さんだけでは意思疎通を欠いてしまうことが以前より懸念されてきた。そのため今回は民生委員を招き顔合せ会を企画した。ブロックごとに担当民生委員と自治会長がグループに分かれ、地域の困りごとや問題点などの情報交換が行われた。参加者にとって大変実りのある集会になった。



●西原小体育館、プールの改修・改築を要望しよう

自治会長会議では西原小の体育館とプールの改修・改築の必要性について提言されている。プールに関しては昭和28年に市民プールと兼用で建設され、68年を経過し補修を重ねているが老朽化が著しい。16年前から3度にわたって直接、まちづくり懇談会において市長に要請を続けているが、いまだに実現していない。体育館は部分改修が行われる予定であるが、その内容については、エアコンの設置や断熱材の補強、ペアガラスの採用等、地域住民の災害時の避難先としての機能も鑑み、より良い改修を提案したい。



自治会の加入促進を目的とした、「魅力ある自治会づくり支援事業補助金」を活用し、支え隊のユニフォームと帽子を新調した。次回から活動で着用するようになる。今後も、各自治会からのアンケートをもとに検討し、更に住みやすいまちづくりを目指したい。

◆いきいきライフ西原と 西原セミナーで 寄せ植え講座

コロナ禍で講座が開催できない状態が続く中、「番外編！」と謳って12月15日いきいきライフ西原、12月16日西原セミナーで、それぞれ人数を制限して「年末年始楽しめる冬の寄せ植え講座」を開催した。2日間合わせて45人の受講者は、皆いきいきとした表情でハボタンやシロタエギクなどを手に、熱心に寄せ植えを楽しんだ。出来上がった作品を紹介し合い、早くみんなが集まれる機会をと、次回の開催を熱望していた。



◆にしはら支え隊 帽子とユニフォーム新調

あいあいサイト

●コロナに負けない体作り

2月21日、健康づくり推進員会が「コロナに負けない運動を!!」と題し、地域にも呼びかけて体操教室を行った。
高齢者がフレイル（虚弱状態）から要介護になったりするのを防ぐために、運動士から指導を受けた。



参加者は健康推進員と一般参加者9名。コミセンAB会議室
いっばいに広がって、日頃使わない手足の筋肉を動かすコツなどを学んだ。とても勉強になった2時間だった。

【お知らせ】

新型コロナウイルス感染蔓延のため、今年もさくら祭りは中止となった。
宇都宮の桜の開花予想は2月末現在3月31日頃となっている。密にならないよう春の日差しを浴びて桜を愛でることで英気を養おう。
3月いっぱい、花房本町の英蔵寺は梅が美しく咲いている。ぜひ足を延ばしてみて!



いにしえ古を訪ねて

50年間の思い出の画集を発売



仲田登喜子
西原（90歳）

玄関に入ると、百号の油絵がドンと迎えてくれる。毛糸玉の淡い色合いが心に残る。90歳を迎えた仲田さんは、この程、三人の子供たちの協力で素晴らしい画集を発売した。

40歳を過ぎ、市民講座で油絵を習い多くの美術館を訪ねるようになった。ある日、杉山吉伸先生の個展で百号の絵に感動し光風会入会。

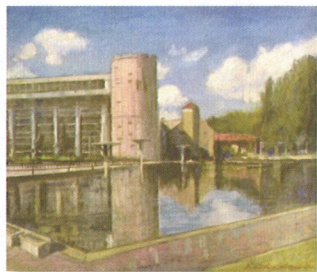
光風会での先生の指導で、絵のモチーフを「白い布と毛糸の玉」にすることに決め、百号のキャンパスと格闘。見事、日展に入選した。その後、夫の介護や自身の圧迫骨折で大きな絵は描けなくなったが「パープルグループ」に入会して、グループ展や展覧会に出品してきた。2011年には2回個展を開いている。

「この画集を、沢山の人が楽しんで、頁を開いていただけたら嬉しい」と愛犬のクラちゃんを抱いてほほ笑む仲田さん。体調がいい日は今でも絵筆を握るそうだ。作品は下の趣味ゆうゆうを参照。

●趣味ゆうゆう

〈油絵〉

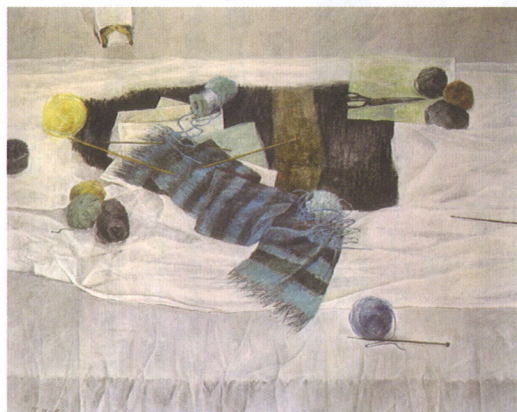
仲田登喜子



わんぱく公園



シンビジウム



私と糸（100号）日展入選作品



〈あとがき〉鍋には欠かせない白菜。最後に芯を残して知人に教わった水耕栽培を試してみた。きゅっと締まっていた葉っぱが開き、やがてその中心に小さな蕾の塊が。数日後にはいきによき伸びて黄色い愛らしい花が咲いた。只今2株目、おうち時間、毎日の水替えも楽しい。